

# これからの錦城、誰に託す？



速報版

再刊 第399号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2022

みんなでつくる  
錦城高校新聞

## 厳正な選挙を行うために

今年の選挙について選挙管理委員長の丹羽絵理香さん(2I)に取材した。

今年の選挙は、新型コロナウイルスの影響で放送演説だった去年とは違い、体育館に全校生徒を集めての立会演説が行われるという。投票方式は、決選投票の場合は投票したい人の名前を用紙に記入し、投票箱に入れる形式で行われ、信任投票は信任する場合は無記名で投票、不信任にはXをつけて投票する形式。

選挙を行う上での注意点について「無効票を投票しないようにして下さい」と語る丹羽さん。去年は無効票がゼロにならなかったそうで、錦城生に対して「しっかり注意書きを読み、ミスのないように投票してください」と呼びかけた。また、朝に生徒玄関前であいさつ運動をしている立候補者に対しても、積極的にあいさつを返してほしいと話した。



それぞれの立候補者の公約をしっかりと読み、自分の意思に基づいて投票してほしいと話す丹羽さん。その公約を読んだうえで選挙を自分事として考え、疑問を持つことを大事にしてほしいという。そして「無関心に投票したものも、これからの錦城の運営に関わってきます。主体的に投票してください」と語った。(香)

① 公約

② 自分を言葉で表すなら？

本日6時間目に行われる生徒会選挙。今年は8人が立候補している。今号には、選挙を目前に控える各候補者の公約や意気込みを掲載。各候補者についてしっかりと理解した上で、ぜひ積極的に投票しよう。あなたの清き一票が、錦城を変える――。

一面：今年度の生徒会の立候補者8人の  
意気込みを紹介！

## 立候補者が公約を語る

## 生徒会副会長候補

### 高杉咲良さん(1C)



① 生徒会のHPを作る  
・自習室でPCを使うようにする  
② 全力、がむしゃら

生徒会副会長に立候補した高杉咲良さん(1C)は2つの公約を掲げている。一つ目は生徒会の活動を改善するための目安箱の活用と、それをより身近に感じてもらうために生徒会のHPを作成すること。二つ目は自習室について調べたいことが出来た時にPCを使って調べることができるくらい十分な数のPCを自習室に設置することだ。高杉さんは自身について自分のやりたいことを最後までやり通せることから全力、がむしゃらと表した。当選したらまず何をしたいかを聞くと「自分が何を出来るかを考え、出来るだけ早く会長のサポートを出来るように前副会長から副会長の仕事を引き継ぎたいです」と答えた。

公約を通して目指したい学校像は生徒会が生徒から離れた存在ではなく、誰でも意見を伝えて、生徒会側から意見を聞けるくらい身近な存在となることだ。錦城生へ「頼りないかもしれませんが、考えをしっかりと話すので、聞いて、応援してくれたら嬉しいです」と語り掛けた。(白)

## 生徒会長候補

### 高梨恭一さん(2A)



① 中央委員会の内部改革  
・自習室開放時間の延長  
② 諦めずやり通す

1年生の頃から一般中央委員として、昨年9月からは生徒会副会長として、様々な改革を推し進めてきた高梨恭一さん(2A)。生徒会長になって行きたいことは「今まで機能していなかった部分を機能させること」だという。新しい役職の設定や一般委員の主体化などを通して「全員でつくる中央委員会」をつくりたいと意気込む。できるだけ早く関わってくれた方に最大限の利益を還元できるような骨組みを作り、生徒に負担をかけない仕組みの構築が目的だそう。来年に錦城高校の開校60周年を控えている今年は、これまでの自身の経験から見てきた課題を改善し、60回生以降の錦城をより発展させていくための基礎となる一年にしたいと話す。最後に錦城生に向けて「今期は、非常にご迷惑をおかけしました。来期もよろしくお願い致します」と協力を呼び掛けた。(金)

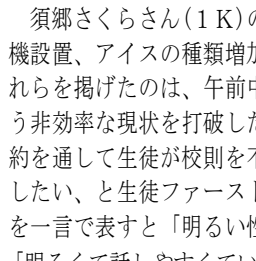
### 栗田紗雪さん(1A)



① 目安箱設置数の増加  
・生徒会報の発行頻度をあげる  
② 初志貫徹

生徒会副会長に立候補した栗田紗雪さん(1A)は公約として「目安箱の設置数の増加、生徒会報の発行頻度を上げる」を掲げている。また、「当選したら、公約である目安箱の設置数の増加によって生徒がどういう学校にしたいかを聞き、その声がより反映されやすい学校を目指したい」と話す。一度決めたことは最後までやり切るという自分の性格を「初志貫徹」と表し、錦城生に向けて「皆さんの意見や要望を聞いて、行動に移していけるような生徒主体の学校を目指すので、応援よろしくお願いします」とメッセージを送った。(白)

### 須郷さくらさん(1K)

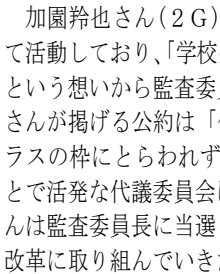


① お菓子の自販機設置  
・アイスの種類の増加  
・お菓子持ち込み可能  
② 明るい性格

須郷さくらさん(1K)の公約は主に3つ。お菓子の自販機設置、アイスの種類増加、お菓子の持ち込み許可だ。これらを掲げたのは、午前中空腹で授業に集中できないという非効率な現状を打破したいと考えたからだそう。この公約を通して生徒が校則を不便に感じることはない3年間をしたい、と生徒ファーストな姿勢の須郷さん。そんな自分を一言で表すと「明るい性格」だと話す。理由は、友達に「明るくて話しやすくいいね！」と言われたためだという。当選後は、まず校則を変えるということの難しさを把握していくことから始めたいと意気込む。そして身近な問題から解決していき、ゆくゆくはスクールバスの導入やスマホの持ち込み許可といった他の要望につなげたいと語ってくれた。最後に錦城生に向けて「私が当選したら、校則で不便だと思う物を少しずつ改善していきます。そして皆さんが卒業するときには最高の3年間だったと思えるものにします」と力強く宣言してくれた。(珠)

## 監査委員長候補

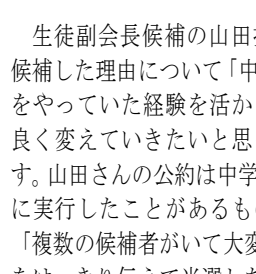
### 加園鈴也さん(2G)



① 代議改革  
② 為すべきことに死力を尽くせる人

加園鈴也さん(2G)は1年生のときから生徒会役員として活動しており、「学校生活をより良いものにしていきたい」という想いから監査委員長に立候補したそう。そんな加園さんが掲げる公約は「代議改革」。この公約は代議委員をクラスの枠にとらわれずにやる気のある人から選挙で選ぶことで活発な代議委員会にすることを目的としている。加園さんは監査委員長に当選したら、校則を緩和出来るように制度改革に取り組んでいきたいと語る。しかし「これらの公約を達成するためには皆さんの力が必要です」とも話した。「是非、皆さんが持つ一票を私に託してほしいです」と呼び掛けた。(桂)

### 山田拓仁さん(1E)



① ローファアの自由化  
・カイロ・ペットボトル  
・キャンプのリサイクル実施  
・紙ごみの分類通知  
・靴下の自由化  
② 完璧主義、決めたことは絶対実行する

生徒副会長候補の山田拓仁さん(1E)は立候補した理由について「中学生の時の生徒会長をやっていた経験を活かして錦城高校をより良く変えていきたいと思ったからです」と話す。山田さんの公約は中学の生徒会時代で実際に実行したことがあるものも多いそう。また「複数の候補者がいて大変ですが、自分の意見をはっきり伝えて当選したいです」と意気込みを語る。当選後について、公約は半年以内に実行することを目標にスピード感を大切にしつつ、学校生活に対する生徒の要望にも随時対応していきたいそう。最後に錦城生に「過去に校則改定を行った経験があるので、公約の達成には自信があります。応援よろしくお願いします」と訴えた。(月)

## 監査副委員長候補

### 浦山一花さん(1F)

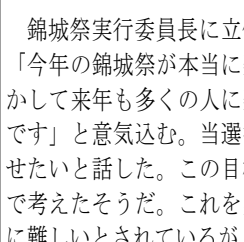


① 部活動停止期間に加え、テスト勉強のために部活動を休める期間をつくる  
② マイペースな平和主義者

自身を「マイペースな平和主義者」と表現する浦山一花さん(1F)。浦山さんは自分や周りの友人が部活動の影響で勉強時間が削られていると感じていたことから「テスト2週間前から部活動に参加するか不参加するかを任意で決められる期間を設けること」を公約に掲げた。「高校生にとって勉強は第一です。文武両道は大切ですが、そのためにどちらかが疎かになったり、負担を感じてしまったりすることがなくなるようにしたいと思っています」と話す浦山さん。監査副委員長としてやるべきことを早く覚えて、委員長からの引き継ぎや仕事を迅速に行い、先輩から頼られるようになりたいという。最後に「当日の演説会は眠ってしまう時間帯になりますが、私のスピーチにぜひ耳を傾けてください。応援よろしくお願いします」と語った。(鋼)

## 錦城祭実行委員長候補

### 田口桜子さん(1C)



① みんなが楽しめる錦城祭を作る  
② あきらめない性格

錦城祭実行委員長に立候補した田口桜子さん(1C)は「今年の錦城祭が本当に楽しかったので、この経験を活かして来年も多くの人に楽しんでもらえる行事にしたいです」と意気込む。当選後には錦城祭の後夜祭を復活させたいと話した。この目標は生徒からの要望がきっかけで考えたそう。これを実現するのは感染症対策のために難しいとされているが、いずれは復活させたいという。また、生徒の意見を多く反映した活気のある錦城祭を目指したいという田口さん。錦城生へ「みんなで最高の錦城祭を作りましょう！」と笑顔で語ってくれた。(珠)